

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

越智秀樹、勝見泰和、池内隆治ほか. 変形性膝関節症に対する鍼治療の検討-運動療法併用の重要性について- 明治鍼灸医学 1995; 17: 7-14. 医中誌 Web ID: 登録なし

1. 目的

変形性膝関節症に対する鍼灸治療の運動療法併用効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属病院整形外科、京都、日本

4. 参加者

変形性膝関節症と診断された患者 48 名 (53-77 歳)

5. 介入

Arm 1: 鍼+SSP 群 (18 名、平均年齢 62 歳)

Arm 2: 鍼+SSP+運動療法の併用群 (20 名、平均年齢 63 歳)

Arm 3: 運動療法単独群 (10 名、平均年齢 67 歳)

鍼治療は週 1-2 回、ステンレス製ディスプレイ鍼 (0.18×40mm) を用い、大腿部 9 か所と風市 (GB31)、足三里 (ST36)、陽陵泉 (GB34)、陰陵泉 (SP9) に雀啄術を行ない、その後 SSP 療法 (膝関節-大腿間に粗密波通電 10 分) を行った。運動療法は大腿四頭筋訓練を中心とした筋力強化運動を行い、自宅でも 1 日 3 回以上、筋力強化運動を行わせた。治療期間は 1 か月。

詳細は記載されていないが、運動療法が適切に行われていない患者は本対象から除外された。

6. 主なアウトカム評価項目

日本整形外科学会膝関節機能評価票 (JOA スコア) および筋力測定

7. 主な結果

初診時と 1 か月後の JOA スコアの比較では、Arm 1 と Arm 2 に増加傾向がみられたが、Arm 3 ではほとんど変化はなかった。群間比較では、Arm 1 と Arm 3 ($P<0.01$)、Arm 2 と Arm 3 ($P<0.05$) の間に有意差があった。追跡調査では運動を継続している患者により高い鎮痛効果を認めた。膝伸展筋力は、群内比較で Arm 2 ($P<0.01$)と Arm 3 ($P<0.05$)で有意な増加が見られた。

8. 結論

鍼治療・SSP 療法・運動療法の併用は変形性膝関節症の保存療法として有効である。

9. 鍼灸学的言及

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

膝 OA 患者に対する鍼治療+SSP 療法に運動療法を併用した場合の効果を調べた研究であり、運動療法の意義を明らかにした興味深い研究である。SSP 療法は TENS の一種でスパイク状の表面電極を用いて通電刺激を行うものである。著者らの先行研究に比して統計解析の面では格段の改善がみられるが、ランダム割り付けの方法が明記されていない点、脱落例の存在が記載されているが、解析結果に反映されていない点が惜まれる。また、評価項目に JOA スコア総合点を用いているが、スコアには疼痛・機能・関節可動域・腫脹の各項目があり、個別の解析も重要と思われる。本研究は、実際の臨床に即した治療法の確立という面で価値の高いものであり、今度より大規模な厳密にデザインされた RCT が実施されることが強く望まれる。

12. Abstractor

川喜田健司 2012.2.3